

2023(令和5)年度 学校評価【自己評価】

2024(令和6)年8月7日

ECC学園高等学校

学校自己評価委員会

教育理念	自ら学び、自ら考え、自らの判断で行動し、世界で活躍できる人物を育成する	評価基準(A~D) A 達成できている B 概ね達成できている C あまり達成できていない D 達成できていない
目標(テーマ)	・ECC学園高校だからできる教育・(生徒自身が)できたと思える教育を実践する ・学ぶ楽しさを知り、自ら学び、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる ・目標(進路)を実現するための教育の提供を行う	

評価項目	具体的評価項目	評価	評価理由・内容	改善点・方針	
1 教育活動	学力の向上	B	レポートは教科書出版社のレポート例を参考にしながらも、各教科・科目においてオリジナル内容となっている。記述問題は「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り、組む態度」を評価する設問で理解度以外に生徒の一面が垣間見られる構成である。添削指導及びその評価は、各教科の教員免許状を有する実施校の教員が行っており、計画的な採点と返却を実施している。	レポートの問題構成については、指導要領に則りながら研究と改訂を継続していく必要がある。また、生徒数増加に合わせて、添削指導の計画および(システム会社と連携した)機能の改善が必要である。	
		B	スクーリング(面接指導)が生徒の学習成果(興味・意欲・関心)につながる内容になっている。また、各科目担当が生徒が主体的に参加できるよう創意工夫を行った授業を展開している。	次年度以降は、面接指導等実施施設でのスクーリング増加を予定しているため、本校で展開する宿泊(集中)スクーリングと日帰りスクーリングの内容は再構成が必要である。評価項目からややづれるが、多少教員間による意識や教授法にバラツキも見られるので、教授法の研修などを検討する。	
		A	試験は生徒の日頃の学習の習熟度を測る内容で構成されている。	試験の問題構成については、評価方法と合わせて研究と改訂を継続していく必要がある。レポートに即した問題構成となっているが、記述問題の解答率が低いこと、指導方法について教科間を超えて検討する必要がある。	
	質の確保	B	教育課程は学習指導要領や本校の目標に則っており、キャリア教育を意識した編成や考え方について、教員間で共有・理解をしている。	教育課程の編成や考え方については、令和5年2月の文科省点検調査を受けて即改善を行っている。教頭・教務主幹中心にその理解に努め、よりよくなっている。	非常勤を含めた全教員への共有としては100%とはいえない。周知する機会の確保から必要である。
		B	通信教育実施計画を作成し、レポート、スクーリング、(放送視聴)、試験を適切に実施している。	通信教育実施計画は各教科の教員免許状を有する実施校の教員が作成し、公開している。また、計画に則り適切に学習活動を実施している。	通信教育実施計画についての研究と改訂は年次で実施する。
		A	生徒の学力・状況など、個々に応じた支援・指導を行っている。また、合理的配慮を提供できている。	生徒の学力・状況など、個々に応じた支援・指導を教職員で情報共有し行っている。ADHD・LD(診断有無関係なく)個々に必要な合理的配慮は提供している。	個別の指導計画の内容についての研究と改善は年次で実施する。
	2 生徒指導	生活指導	A	あえて担任制は敷かず、チームとして一人一人の生徒の指導・支援を行っている。対面が望ましいがオンラインや連絡アプリも活用している。	これまでの指導・支援方法を踏襲しながらも生徒数増加に対応する体制を構築する。
			A	三者面談や保護者会は計画的に実施し連携は行っている。またカウンセラーとは情報交換を密にしている。また、地域(行政・福祉)とも定期的な連絡を行い相互に生徒理解を行っている。	「普段の様子」を保護者等に発信する機会が以前と比較して減少しているため、SNS等を活用する。
		進路指導	C	出口を意識した指導を心がけるよう教員間で共有をしているが、「その他」の進路が卒業生の3割を占めていることが示す通り、改善の余地がある。また、卒業後の進路での自立を確認するためのアンケート等を実施する必要がある。	進路にバラツキがあるため仕方がない部分があるが組織的に進路指導を行えるよう改善する。
C	外部組織(大学・専門学校・進学/就職事業者)と協力しながら適切な進路選択と進路実現につなげる情報提供・支援を行っている。		継続的な進路活動を1年次後期に、より見える化が必要である。次年度以降は学園内進学を体系的に実施する。		

3 学校運営	経営方針	学校のビジョンと目標を明確にし、経営方針が教職員へ浸透している。	A	数値目標は職員・契約職員中心に周知している。年2回の研修時に教育50:経営50の視点から全体共有を行っている。	新たな組織での数値意識をもって職務を行う。
		財務、収支状況に関して理解している。	B	財務、収支状況は職員・契約職員中心に周知している。年2回の研修時に経費マインドの全体共有を行っている。	新たな組織での数値意識をもって職務を行う。
	教職員関係	分掌や体制が適切に機能するなど、運営組織・責任体制が整備されている。	C	責任体制は明確となっている。学校運営に支障は出ていないが、一人一人があらゆる業務を担っており、とりわけ、教免者の負担が大きくなっている。	部分的に属人的となることはやむを得ない部分はあるが、関係法令に則った体制を維持しながら、校務の分担を行う。
		各校間、教職員間において共通認識・理解のもと、信頼関係が構築され、教育活動が実践されている。	B	全体研修の実施以外にも、特筆すべき生徒情報は共有し、スクーリング等の指導に生かしている。またスクーリングを情報交換の場と活用し、非常勤講師も含めたコミュニケーションを図っている。	教職員間で一貫した指導を行えるよう、引き続き定期的な研修以外の場でも共通認識・理解を行う。
	渉外活動	オープンハイスクールや個別相談会の実施やWEB、学校案内など質量共に適切な広報を行っている。	B	HPやSNSを活用しながら、新入学、転入学それぞれに適切な広報を行っている。	オープンハイスクール等で習得した情報を活用し、中学校へのアプローチを強化する。
		各事業者や行政などと連携した活動を行っている。	A	各事業者においてはポータルサイトや合同相談会を利用しながら、他校や最新の情報交換を行い、広報および教育活動につなげている。	中学校や行政(県)との連携を教育活動に展開していく。
4 環境整備	施設・設備	学校施設や設備は高等学校通信教育規程に則った環境が整備されている。	B	関係法令に則して、教室・職員室・図書室・保健室・体育施設(運動場)その他の教育活動に必要な施設を整備しており、面接指導実施施設についてもこれに準じて設定している。	関係法令に則った環境下において教育活動を行う。
		ICT活用のために十分な環境が整備され、教育活動が実施されている。	C	一人一台端末までは至っておらず、コース限定的になっている。また使用コースにおいても最低限の利用になっている。	利便性の向上と学習指導要領に則った教育活動のバランスを考慮しながら、学力や生徒の活動向上を行う。
	危機管理 安全対策	学校保健安全法に則り、諸活動が実施されている。	C	健康診断は学校主体として実施している。その他については不定期の確認や共有に留まっている。	教育活動としての周知や地域公共機関との連携の充実を図る。
5 連携	保護者連携	面談や保護者会など情報交換・提供の機会を定期的に設け連携を行っている。	A	三者面談や保護者会は計画的に実施し情報交換・提供の機会を定期的に設けている。また電話等を通じ、気になる状況は迅速に保護者に伝達・確認を行っている。	通信・通学の学習スタイルに関係なく、保護者への情報提供の頻度をあげていく。
	地域連携	地域活動への参加やイベントへの協力(経済的貢献)で、連携を行っている。	B	スクーリングにおいて地域学習や環境学習などを取り入れている。地域活動には協力費という形で貢献している。	地域学習や特別活動において地域活動への参加やイベント協力の充実を図る。
	学校法人 (学園)内連携	専門学校高等部との連携を深め、通信制高校としての在り方や生徒指導に関して情報交換を行い、よりよい学校づくりを実践している。	B	担当者間による生徒情報を中心とした情報交換を定期的実施、キャリアサポートとして学園内での体験を行っている。	指導内容の差異もあるため、学園内で一貫性のある教育活動を行う。学園内進学に関して、制度の確定と情報交換を行う。